

その油断が、命取り。

西日本豪雨の教訓でもある「逃げ遅れ」。なぜ豪雨災害での「逃げ遅れ」による犠牲者が後を絶たないのか、2つの視点からその現状をお伝えします。

⚠️ 逃げない理由

出典：NHK放送文化研究所（2019）

- ・自宅にとどまる方が安全：54%
- ・他の情報も確認して判断したい：51%
- ・避難所での生活にストレス：32%
- ・家族の避難を考えなければならない：23%
- ・ペットの避難を考えなければならない：18%
- ・どこに避難したらよいか分からない：15%
- ・防犯上、自宅を留守にしたい：8%
- ・自力で避難することが難しい：8%

心あたり
ありませんか？

⚠️ 逃げたくない心理

「避難勧告がでたけど、雨が降ってなかったき、避難しなくても大丈夫やろう」

「今まで避難勧告や避難指示（緊急）が発令されてもなにも起こらんかったき、今回も大したことないろう」

「もうすぐこの雨はやむろう」

「今までうちの裏山は崩れたことなかったき、大丈夫やろう」

心あたり
ありませんか？

特集

豪雨災害から命を守る。

これまでの経験は、 もう通用しない。

平成26年台風11号 大道地区土砂災害

今

年も、豪雨災害が各地で発生しています。九州地方では、発達した梅雨前線の停滞による断続的な線状降水帯の影響で、死者・行方不明者81名（7月12日 現在 消防庁）の被害をもたらしました。

この災害では、13事例もの線状降水帯が発生し、熊本県で大きな被害をもたらした球磨川の周辺では11時間以上停滞が継続しました。これまでの経験や対策が通用しない雨の降り方となっています。

平成最大の豪雨災害である西日本豪雨で指摘された「逃げ遅れ」による犠牲が、残念ながら今回も発生してしまいました。

気候変動による豪雨災害は、今後も増加する傾向にあり、わがまち四万十町も決して他人事ではありません。明日は我が身という言葉の通り、我がこと意識を持つことが、今求められています。

さらに、今年も新型コロナウイルスの影響もあり、3密を回避するなど、避難のあり方を見直す必要があります。

今月の特集では、豪雨災害時の「逃げない」避難の現状と「逃げる」避難の取り組みから、今一度、備えについて本気で考えてみましょう。



窪川小学校前 浸水の様子



勝賀野 土砂災害



米奥小学校前 河川水位上昇の様子



大正地区の町道 崩壊の様子



大正診療所駐車場 浸水の様子

写真で振り返る

台風11号

平成26年